地域ニュース

京人

—きょうと—

総合不動産企業「LIVグループ」代表 波多野賢さん（54）

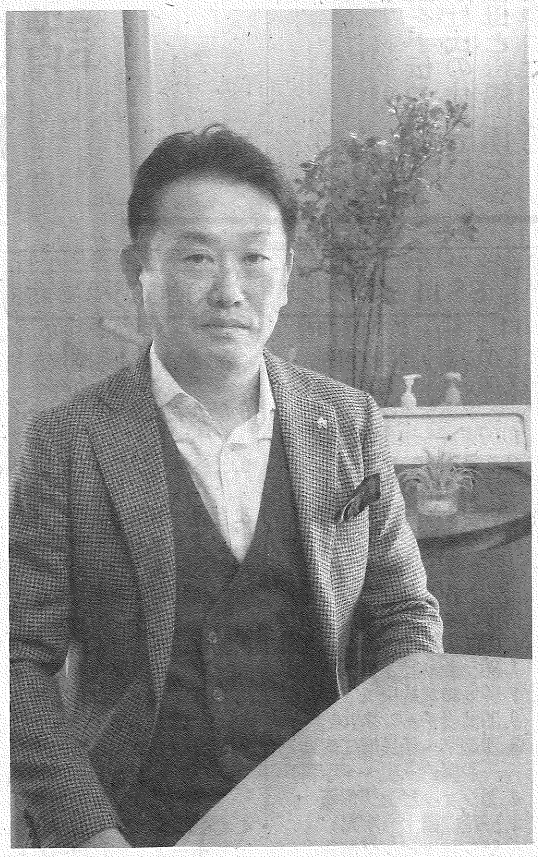
木造の大型建物建設

地元産こだわり 工法確立

火器を使う自動車整備工場を木造で建てる全国でも珍しい試みで、注目を集めた。石膏ボードや集成材で強度や耐火性を高める工夫も凝らす。大型建物を木造で取り組むきっかけは、かつて勤務した大手住宅メーカーでコンクリート建物への評価を聞いたことだ。

コンクリートは火災に強い半面、使用され始めてからまだ100年ほど。どれだけの耐久性があるのか、誰も分からない状態だった。平成24年の中央自動車道笹子トンネル（山梨県）の天井板崩落事故は、それを予期させた。「一方で、木が数百年も長持ちすることは、すでに寺や神社が証明している」と強調する。

使う木は地元産がベストとのこだわりを持つ。「建物と同じ環境で育った木は周囲の環境になじんでいるため、建材になっても他の地域の木より長持ちする。大学の実験でも証明されていることなんです」



はたの・さとし　昭和42年、長岡京市生まれ。大手ハウスメーカーの下請け勤務などを経て、「居住者の理想の暮らし」の実現を求めて平成10年に「LIV（リヴ）」を創業。現在はグループ化（5社）し、不動産の売買や仲介、宿泊業なども手掛ける。「脱コンクリート」を掲げ、本社ビル以外に長岡京市に木造5階建てホテルを建てるなど、木造の大型ビルや福祉・公共施設に取り組む。

6年前、向日市の阪急洛西口駅前に木造5階建ての本社ビルを建てた。しかし当時は工法も確立していなかったため、他の階の音がコンクリート建物以上に響くとの課題が浮き彫りに。

木はしなるため、太鼓のように細かく振動して周囲に音が響くことを突き止め、振動しない合成材を考案した。その結果、2階で5歳児が走りまわり、1階で0歳児がぐっすり眠る保育園の建設も実現。本社ビルの建設以降、これまでに手掛けた住宅以外の大型の木造建物は十棟以上と着実に実績を伸ばしてきた。

また祇園祭の鉾の一つ、函谷鉾の保存会で伝承委員の顔も持つ。山鉾巡行で通る四条通や御池通沿いのビルをすべて木造にしてみたいとの思いがある。

「現在は木造でもっと高いビルも建てられるほどに技術も向上している。やはり山鉾には鉄筋のビルよりも木造の方が絶対に似合うと思いますよ」。確立した工法や信念を基に夢は広がる。

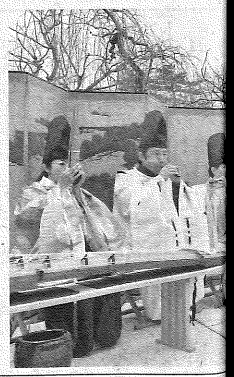
（園田和洋）

雪月

活躍した松永貞徳が京都に造った「雪月花の三名園」のうち、明治初期に取り壊されていた北野天満宮（上京区）の「花の庭」が再建され、記念式典が天満宮で開かれた。

当時の詳しい資料が残っていないことから、境内の「梅苑」を独自の解釈で改修し、現代版するための風景を新たに設置し、かつての花の庭にあった庭石を用いて枯れ山水を造った。

北野天満宮によると、花の庭は北野天満宮内にあった仏教的施設の庭として残っていたが、明治政府の神仏分離政策に伴い取り壊されたという。三名園の他の二つ、妙満寺（左京区）の



「花の庭」が再建され、記念式典でテープカットをする関係者ら—いずれも上京区

3回目 接種券な

新型コロナ ワクチン

新
ナウ
ワ
の
の
3
4
種について、京都市は
やこめっせ（左京区）の
種会場で、接種券が届い
い市民にも11日から接種
すると発表した。期間は
でで、昨年8月20日まで
目の接種を終えた市民約
千人が対象になる。

市は、昨年7月1日～